

☆第2回「あり方懇」開かれる

☆和田春生先生偲ぶ会

☆北への食糧支援に抗議の声

第71号 2000年11月1日

(平成7年3月17日第三種郵便物認可)

秋の政局をどう読むか — 参院選脱んだ各党の攻防 — 産経新聞政治部長 中静敬一郎

■「トップリーダーとは何か」を考えさせる森政権

時の宰相を決めるのが天の思し召しだとすれば、一体天は何故に森総理を就任させたのだろうか。私はこれは、「トップリーダーとは一体どういう人であるべきか」ということを、われわれ国民に問いかけ、考えさせてくれているのではないかと思う。誰にでも総理は務まるということも一つはあるだろう。一方で、例えば朝鮮半島情勢や中国の脅威など日本を取り巻く国際情勢がますます厳しさを増す中で、わが国が21世紀にどうやって生き延びるかというとき、森総理は自分の感情を意外なほどストレートに表に出す。悪い人ではないという印象も持てるが、国際的な駆け引きも含めて、これからの時代のリーダーとして相応しいのかどうかということを、天は国民に考えさせようとしているのではないか。

フジテレビ報道2001の世論調査で、支持率はおよそ二割前後、不支持が八割近くある（9月26日現在）。にもかかわらず森政権は不思議な安定を保ち、なお続いている。

この政権の強さの原因はいくつかある。一つは森総理自身を含め、この政権をつくった青木、野中、村上、亀井のいわゆる「五人組」が、小渕前総理に忠誠を尽くした森氏を起用したことでYKKが分断され、特に加藤紘一氏の力を大きく削いで政権を潰すという動きが出てこなくなったことだ。つまり「ポスト森」の不在ということが言えよう。

もう一つは野党の非力さである。例えば仮に6月の総選挙で、野党として一人の総理候補をトップリーダーとして掲げ、政権構想を提示していたら、状況は変わっていたかもしれない。野党政権をつくる受け皿という選択肢もあったのではないだろうか。

もちろん小渕前総理の急死ということで政権が回ってきたという森総理自身の運の強さもある。

■内閣改造が大きな鍵に

以上のようなことから、二割そこそこの支持率でも何とか政権を維持していると言える。この安定は、このままでいけば来年夏までは続く可能性もある。

ただ自党内は、12月に行われるといわれる内閣改造に向け、様々な人事調整が行われている。今回の臨時国会は参議院選挙制度改革をはじめ大きな案件を抱えているが、これの処理に絡んで大きな展開が起こる可能性もある。ここで注目されるのは野中幹事長の留任問題だ。国会処理の中では公明党との調整が大きなポイントとなる。公明党がどのような形で森政権と距離をとるか。自民党としてはやはりなんとしても公明党には与党の中に入れてもらいたいはずだ。

公明党からは森政権に距離を置いた発言も聞かれる。もし野中幹事長が辞めるとなると、自民と公明のパイプは非常に細くなる。これは政権の基盤が大きく揺らぐことにも繋がりがかねない。そうなるとやはり公明党の神崎氏の入閣ということは当然ありうる。

もう一つは公明党の動きに関連して加藤氏がどう動いていくかだ。自民党が挙党一致という名目の下で加藤氏に閣内に入るよう要請していくのか。またこれを加藤氏が受けるかどうかということだ。この結果が、おそらく来年夏以降の政局を考える上でのポイントとなるだろう。

これとセットになるがいまの政府自民党の執行部として、一体誰を中心にしていくのか。いまの中川官房長官は青木前官房長官に比べて非力だという指摘があり、この人事をどうするのか。また森総理自身のスキャンダルなど、障害は多い。

■必死の与党に野党がどう対応するか

参議院選挙制度改革で、与党は非拘束名簿方式を案として出している。確かにこれによって従来よりは関心は高まるだろうし、組織の力量が問われる制度である。自民党は先の総選挙でも明らかになったように、すでに有権者に比例で「自民党」と書いてもらう力はない。

また「石原新党」など新党結成の噂もいくつか囁かれている。自民党は非常にこれを警戒しているが、候補者の名前を書く制度になったとすれば、石原氏自身が都知事を辞して出なければ効果は薄い。しかし都知事を放り出すのは非常に難しいのではないかと。

世論調査では自公保政権に対し七割の人が「ノー」と答えている。森政権が続けばますますこれが高まる可能性は大きい。もっとも参議院の定数が減れば、与党は改選議席のうち64議席で過半数を獲得できる。おそらく自公保は候補者を絞り、各県必ず一議席を確保するという必死の覚悟で臨んでくることは間違いない。

これに対して野党がどう対応するのか。具体的に言えば、野党の選挙協力がどこまでできるかにかかっていると看取してもよい。特に最大野党の民主党がどのようにリーダーシップをとっていくのか。菅直人民主党幹事長は、民主党独自で戦いたいと考えているようだ。そうすると協力は難しくなってくる。

来年の参院選で、与党が過半数を獲得できなければ、激動の可能性は出てくる。しかし森政権が長くなれば長くなるほど、いまの状況は続いていくのではないかと思う。

9月26日 月例研究会より（要旨）